

TECH-BEE dII マニュアル

第12版

テロップ
ドロップファイルリスト
優先選択コンボボックス
ラベル
テキストボックス
カラフルキューブ
パスワードポリシーチェック
FTPコネクション
システムインフォメーション
クーロンリーダー
コネクション(MySQL)

■ 免責事項について

本ソフトウェアは、無保証です。
本ソフトウェアを用いた結果による損害、免失利益などについては著作者は一切責任を負いません。使用者自身の責任でお使い下さい。

■ 再配布について

本ソフトウェアは日本国著作権法および国際条約において保護されています。
本ソフトウェアの一部または全部を『著作権者の許可なしに』再配布することは著作権の侵害となりますのでご注意ください。
ただし製品の性格上、本ソフトウェアを利用して開発したプログラムを利用・配布する事は一切の問題はありません。

TECH-BEE

ホームページ <http://techbee.web.fc2.com/>

ご意見ご要望 <http://techbee.blog14.fc2.com/?all>

メールアドレス tech-bee@mail.goo.ne.jp

改定履歴

版	公開日	摘要
第12版	2011/06/26	コネクション(MySQL) (1.0.0) 追加 FTPコネクション (1.1.0) バージョンアップ クローンリーダー (1.2.0) バージョンアップ
第11版	2011/06/19	クローンリーダー (1.1.0) バージョンアップ
第10版	2011/06/12	クローンリーダー (1.0.0) 追加
第9版	2011/06/04	FTPコネクション (1.0.0) 追加 システムインフォメーション (1.0.0) 追加
第8版	2011/05/26	テキストボックス(2.0.0) バージョンアップ
第7版	2011/05/21	テキストボックス(1.2.0) バージョンアップ
第6版	2011/05/15	パスワードポリシーチェック(1.0.0) 追加 本文書名称変更 (カスタムコントローラマニュアル → dll マニュアル)
第5版	2011/04/28	カラフルキューブ(2.0.0) 追加
第4版	2011/04/25	テキストボックス(1.1.0) 追加
第3版	2011/04/16	ラベル(1.0.0) 追加
第2版	2011/04/03	優先選択コンボボックス(1.0.0) 追加
第1版	2011/03/26	初版公開 テロップ(1.1.0) ・ドロップファイルリスト(1.0.0) 追加

目次

カスタムコントロールの準備	1
dll の準備	2
優先選択コンボボックス (cctFrequencyComboBox)	3
ラベル (cctLabel)	5
システムインフォメーション (cctStatusStrip)	6
テロップ (cctTelop)	7
テキストボックス (cctTextBox)	8
クローンリーダー (clsCronReader)	10
パスワードポリシーチェック (clsPassword)	13
コネクション MySQL (ConnectionMySQL)	15
F T P コネクション (conFtp)	18
ドロップファイルリスト (DropFileList)	20
バイナリーキューブ (uctBinaryCube)	22
カラフルキューブ (uctColorfulCube)	23
クルクルキューブ (uctCurucuruCube)	24

カスタムコントロールの準備

はじめに

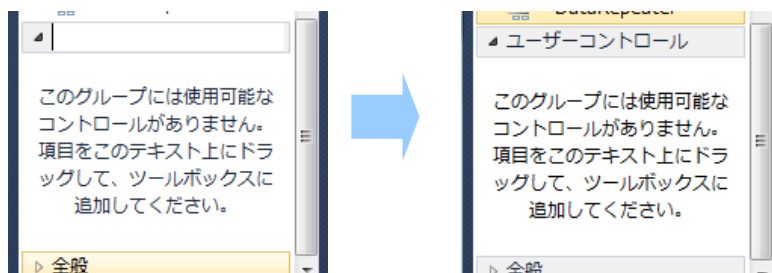
カスタムコントロールとは、.NET Framework クラス ライブラリに属さないコントロールで、ユーザー コントロールを含めた総称です。
ASP.NET で使用する カスタム サーバー コントロールと、Windows Form アプリケーションで使用する カスタム クライアント コントロールがあります。
また、一般的には標準コントロールの機能を拡張したものをカスタムコントロール、ユーザーコントロール用のベースに単体もしくは複数のコントロールを配置し意味のある一連の機能をまとめたものをユーザーコントロールと呼び、区別します。

登録方法

VB.net, C# などの開発環境でフォームもしくはユーザーコントロールのデザイン画面を開きます。

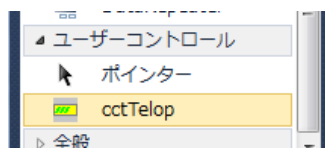
ユーザーコントロールを登録するタブの追加

デフォルトでは画面の左側に配置されているツールボックスの中で右クリックをし、タブの追加をクリックします。
タブ名の入力を促されますので、ユーザーコントロールなど分かりやすい名称を指定してください



ユーザーコントロールの追加

エクスプローラー上から任意のコントロールの dll をドラッグして、上記にて作成したタブにドロップすることにより追加することが出来ます。



※ 利用環境が適切でない場合ドラッグアンドドロップしてもタブ内に表示されないことがあります。
例) コントロールが .netFrameWork4.0 で開発されていて、開発環境が 2.0 となっているなど

使用方法

標準のコントロールと同じようにフォームやユーザーコントロールに貼り付けて使用してください
詳細は個々のコントロールのマニュアルをご確認ください

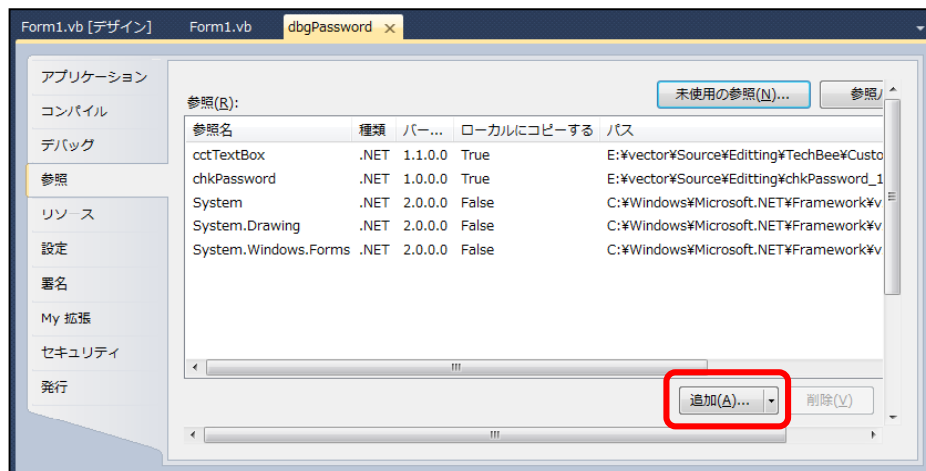
dll の準備

はじめに

本来カスタムコントロールも dll ですが、本文書ではカスタムコントロールを除く dll の事を dll と呼びます。

登録方法

VB.net, C# などの開発環境で追加したい dll の参照を追加します。



使用方法

オブジェクトを生成した上で利用してください
詳細は個々のコントロールのマニュアルをご確認ください

概要 Windows Form 上で、直近の選択項目および選択頻度が高い項目を優先的に表示するコンボボックスです。
選択項目にない文言を随時追加することが出来ます。
管理用のデータベースとして SQLite のデータベースファイルを利用しています。

分類 カスタムコントロール

ファイル名 cctFrequencyComboBox.dll

参照ファイル conSQLite.dll データベース接続用 dll
System.Data.SQLite.dll SQLite 管理用 dll
ComboDataFile.db データベースファイル

準備 カスタムコントロールの準備方法を参照してください

利用方法 フォーム上に貼り付けてください

サブプロシージャ	名称	引数	摘要
	gsub_SelectedItem	なし	選択した項目を最新としてデータベースに登録します。

ファンクション	名称	引数	型	摘要
	gfnc_blnGetData	なし	Boolean	データベースに登録された内容から直近に選択されたもの、選択頻度が高いものの順に並べ替えられたデータをコンボボックスにセットします。

プロパティ	名称	Read	Write	型	摘要
	DatabaseFile		<input type="radio"/>	String	SQLite のデータベースファイルを絶対パスもしくは相対パスで指定します。
	Password		<input type="radio"/>	String	SQLite のデータベースファイルに設定したパスワードを指定します。設定されていなければ指定不要です。
	TableName		<input type="radio"/>	String	SQLite のデータベースファイル中のテーブル名を指定します。
	MoreRecentlyCNT		<input type="radio"/>	Integer	選択候補の先頭に表示する直近に指定した項目の件数を指定します。直近から順番に並べます。
	RecentlyCNT		<input type="radio"/>	Integer	リスト中の全ファイル名を取得します。引数に True を与えると選択データのみを返します。

概念 右のようなデータがデータベースに登録されており、MoreRecentlyCNT が 2 RecentlyCNT が 4 であった場合、表示順は赤丸の順番になります。
それぞれ 3 と 3 だった場合表示順は青丸の順番になります。

項目名	選択年月日時分秒	選択回数		
項目 1	20100101_011010	7	⑤	④
項目 2	20100101_011011	6	⑥	⑤
項目 3	20100101_011012	5	⑦	⑥
項目 4	20100101_011013	4	③	⑦
項目 5	20110101_011014	3	②	②
項目 6	20110101_011015	2	①	①
項目 7	20100101_011016	1	④	③

MoreRecentlyCNT	2	一番新しい 二番目に新しい
RecentlyCNT	3	三番目から五番目に新しい中で一番選択回数が多い 三番目から五番目に新しい中で二番目に選択回数が多い 三番目から五番目に新しい中で三番目に選択回数が多い 六番目以降の中で一番選択回数が多い 六番目以降の中で二番目に選択回数が多い

MoreRecentlyCNT と RecentlyCNT を同じ値にすると、RecentlyCNT の指定は無視されます。

利用例

```
Public Class Form1
```

```
    Private Sub Form1_Load(ByVal sender As System.Object, _  
                           ByVal e As System.EventArgs) Handles MyBase.Load  
        CctFrequencyComboBox1.DatabaseFile = ".¥ComboDataFile.db"  
        CctFrequencyComboBox1.TableName = "ComboData"  
        CctFrequencyComboBox1.gfnc_blnGetData()  
    End Sub  
  
    Private Sub Button1_Click(ByVal sender As System.Object, _  
                              ByVal e As System.EventArgs) Handles Button1.Click  
        CctFrequencyComboBox1.gsub_SelectedItem()  
        CctFrequencyComboBox1.gfnc_blnGetData()  
    End Sub
```

```
End Class
```

その他

添付のデータベースファイルを利用していただくことにより本 dll を利用していただけますが、次の SQL により、SQLite の任意のデータベースファイルに管理テーブルを登録していただくことができます。

```
CREATE TABLE [ComboData] (  
    [ItemData] TEXT NOT NULL UNIQUE,  
    [SelectDate] TEXT,  
    [SelectCount] INTEGER,  
    PRIMARY KEY (ItemData)  
)
```

※ テーブル名は任意のものに変えて使用してください

概要

標準の機能を拡張したラベルです。

Caption に指定した文字列を、デザイン上のコントロールの幅で均等割付します。

分類

ユーザーコントロール

ファイル名

cctLabel.dll

準備

カスタムコントロールの準備方法を参照してください

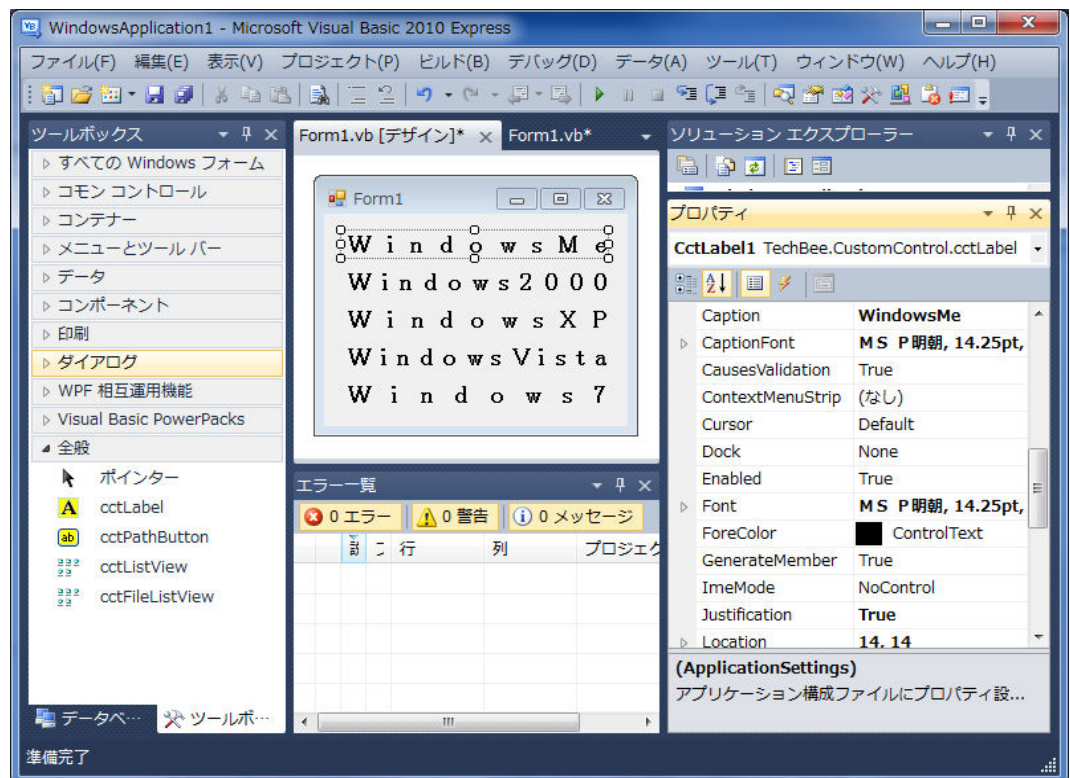
利用方法

フォーム上に貼り付けてください

プロパティ

名称	Read	Write	型	摘要
Caption	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	String	コントロール上に表示する文字列を指定します。
CaptionFont	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Font	一般的なコントロールで指定する Font と同様のものです。プロポーショナルフォントを指定していただくことも出来ます。
Justification	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Boolean	均等割付をするかどうかを指定します。 True : 均等割付をする False : 均等割付をしない 今後機能拡張をした際に、別の機能だけを使うこともあると思われるために実装してあります。 False にすればほぼ通常の Label としてご利用いただけます

利用例



プロパティの設定だけで設定をすることが出来ます。
フォントは、プロポーショナルフォントやボールドも利用できます。

概要

標準の機能を拡張した StatusStrip です。
システムの記法情報を表示しますので、プログラムのメインメニューなどに貼り付けて
ご利用ください
システム情報をプロパティにて取得することも出来ます。

分類

カスタムコントロール

ファイル名

cctStatusStrip.dll

準備

カスタムコントロールの準備方法を参照してください

利用方法

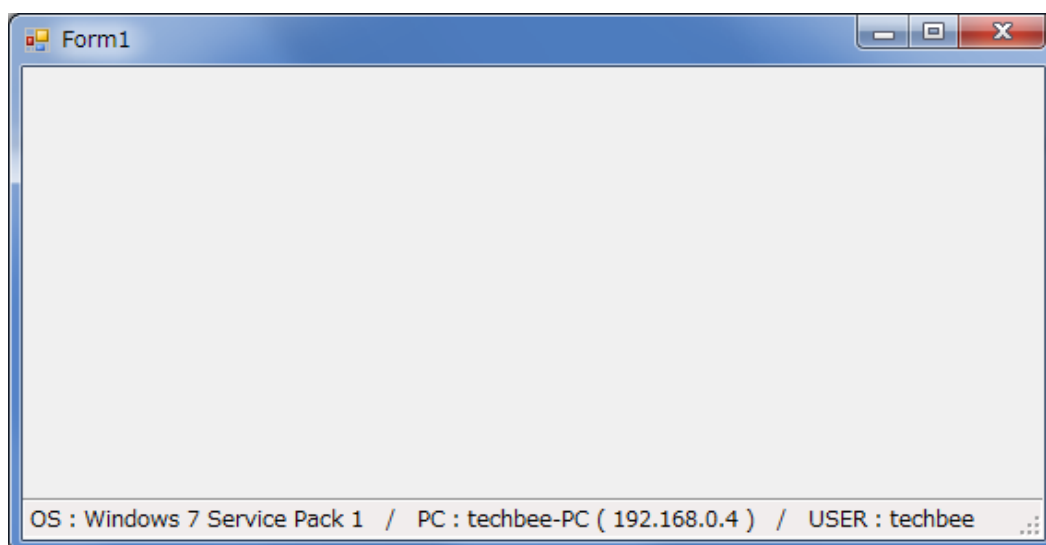
フォーム上に貼り付けてください

プロパティ

名称	Read	Write	型	摘要
OperatingSystemName	<input type="radio"/>		String	OS のバージョン情報を返します。 サービスパックが当たっていればそれ も返します。
LocalHostName	<input type="radio"/>		String	パソコンの名称を返します。
DomainName	<input type="radio"/>		String	所属するドメイン名を返します。 ワークグループに所属している場合 は空白を返します。
IpAddress	<input type="radio"/>		String	IP アドレスを返します。 複数の IP アドレスの設定がある場 合は最初に検出した値を返します。
LoginUserName	<input type="radio"/>		String	OS にログインしているユーザー ID を返します。

利用例

■ カスタムコントロールとしてフォーム上に貼り付けて利用してください



概要

Windows Form 上で任意の文字列をスクロールして表示します。
 同時に複数の文字列をセットすることが出来、順番に表示します。
 実行途中での追加・割り込みができます。
 ひとつの文字列ごとに表示終了時にイベントを発生させることができます。

分類

ユーザーコントロール

ファイル名

cctTelop.dll

準備

カスタムコントロールの準備方法を参照してください

利用方法

フォーム上に貼り付けてください

プロパティ

名称	Read	Write	型	摘要
Caption	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	String	テロップで表示する文字列を指定します。 設定と共に表示しなおします。
AddCaption		<input type="radio"/>	String	テロップで表示する文字列を追加します。
AddCaptions		<input type="radio"/>	String()	テロップで表示する文字列を配列で追加します。
InsCaption		<input type="radio"/>	String	実行時に現在表示している文字列と次の文字列の間に文字列を割りこませることができます。
CaptionColor	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Color	文字色を指定します。
BackColor	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Color	背景色を指定します。
Speed	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Integer	文字列が流れるスピードを指定します。
CaptionFont	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Font	文字列のフォントを指定します。
Active	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Boolean	True にすると文字列が流れ、False にすると止まります。
BeforeSpaces		<input type="radio"/>	Integer	それぞれの文字列の先頭に自動的にスペースを付加することが出来、スペースの数を指定します。

イベント

名称	摘要
MessageEnd	個々の文字列が流れ終わったときにイベントが発生します。

利用例

Public Class Form1

```

Private Sub Form1_Load(ByVal sender As System.Object, _
    ByVal e As System.EventArgs) Handles MyBase.Load
    Dim strCaptions() As String = Nothing
    Dim intCNT As Integer
    CctTelop1.Caption = "最初からのメッセージ"
    For intCNT = 0 To 2
        ReDim Preserve strCaptions(intCNT)
        strCaptions(intCNT) = CStr(intCNT + 1) & "つ目の追加"
    Next
    CctTelop1.AddCaptions = strCaptions
    CctTelop1.AddCaption = "最後の追加"
End Sub

Private Sub CctTelop1_MessageEnd(ByVal sender As Object, _
    ByVal e As System.EventArgs) Handles CctTelop1.MessageEnd
    MsgBox("終わったよ!")
End Sub

Private Sub Button1_Click(ByVal sender As System.Object, _
    ByVal e As System.EventArgs) Handles Button1.Click
    CctTelop1.InsCaption = "割り込み"
End Sub

End Class

```

概要

標準の機能を拡張したテキストボックスです。
 文字列・数値・日付・時刻・大文字・小文字 を登録するために最適化したコントロールとして動作します。
 フォーカスが当たるとバックカラーが変化し、外れると戻ります。
 入力値がエラーの場合、エラーの色になります。
 桁数の指定やフォントサイズの変更により自動的に最適なサイズに変化します。
 サイズは MS ゴシックを基準としているために、他のフォントでは適切に表示できません

分類

カスタムコントロール

ファイル名

cctTextBox.dll

準備

カスタムコントロールの準備方法を参照してください

利用方法

フォーム上に貼り付けてください

スタイルモード

次の各スタイルがあります。

0 文字列	ほとんどすべての文字列が入力できます。
1 数値	数字とマイナス・ピリオドのみが入力できます。 指定範囲外の数値入力・数値以外が入力でエラーになります。
2 日付	数字とスラッシュのみが入力できます。 指定範囲外の日付入力・日付以外が入力でエラーになります。
3 時刻	数字とコロンのみが入力できます。 指定範囲外の時刻入力・時刻以外が入力でエラーになります。
4 大文字	入力したアルファベットが大文字になります。
5 小文字	入力したアルファベットが小文字になります。
0・4・5 文字列全般	指定バイト数以上の入力・ホワイトリストやブラックリストに違反する入力でエラーになります。

プロパティ

名称	StyleMode	型	摘要
StyleMode		Integer	typNoControl (0) : 文字列、 typNumeric (1) : 数値、 typDate (2) : 日付、 typTime (3) : 時刻、 typUpperCase (4) : 大文字、 typLowerCase (5) : 小文字 の入力を指定します。
BlackList	0・4・5	String	入力を禁止する文字列を指定します。
WhiteList	0・4・5	String	入力を許可する文字列を指定します。
clrGotFocus	0・1・2・3・4・5	Color	フォーカス取得時の BackColor を指定します。
clrError	0・1・2・3・4・5	Color	エラー発生時の BackColor を指定します。
MaxLength	0・4・5	Integer	入力可能バイト数を指定します。
MaxFigure	1	Integer	入力可能桁数を指定します。
FormatString	1・2・3	String	数値・日付・時刻の表示書式を指定します。
Value	0・1・2・3・4・5	String	数値・日付・時刻は指定した書式で、それ以外はそのままの値を String 型で返します。
MaxValue	1	Decimal	数値の最大値を指定します。 デフォルト : 2147483647
MinValue	1	Decimal	数値の最小値を指定します。 デフォルト : -2147483648
MaxDate	2	Date	日付の最大値を指定します。 デフォルト : 9999/12/31
MinDate	2	Date	日付の最小値を指定します。 デフォルト : 1900/01/01
MaxTime	3	Date	時刻の最大値を指定します。 デフォルト : 23:59:59
MinTime	3	Date	時刻の最小値を指定します。 デフォルト : 00:00:00

バージョンアップ	2.0.0	StyleMode が typNoControl(0) : 文字列 の場合に限り、MultiLine を True にすると入力可能バイト数のチェックをしないようにしました。 WhiteList 指定時にバックスペースが無効になっていた不具合を修正しました。
	1.2.0	デフォルトのフォントサイズを 10pt から 9.75pt に変更しました。

概要

ユニックスで利用されている決められた時間にジョブを自動実行させる設定 (cron : クーロン) を模したデータを元に記述したスケジュールを展開し DataTable に格納して返します。
作業用に SQLite のデータベースファイル (CronReader.db) 他複数のファイルを利用していますので、本 dll と同一ディレクトリに配置してください。
不正データがあった場合はメッセージボックスで該当データを表示します。
また、カレントフォルダー上に Error.log を出力するとともに、ErrorLog プロパティにて値を取得することが出来ます。
若干処理速度が向上しました。

分類

dll

ファイル名

CronReader.dll

準備

dll の準備方法を参照してください

利用方法

次のようにしてオブジェクトを生成してください
Dim objCronReader As New TechBee.clsCronReader

ファンクション

名称	引数	型	摘要
gfnc_objDataTable	strScheduleData() strMaxDate	String() String	クーロンデータ (strScheduleData()) を元にスケジュールを展開して DataTable に格納して返します。 登録最終日 (strMaxDate) を指定することも出来ます。(デフォルトは1年後の前日)
	strFileName strMaxDate	String String	クーロンを記述したテキストファイル (strFileName) を元にスケジュールを展開して DataTable に格納して返します。 登録最終日 (strMaxDate) を指定することも出来ます。(デフォルトは1年後の前日) サンプルとして CronData.txt を添付してあります。

プロパティ

名称	Read	Write	型	摘要
ErrorLog	○		String	gfnc_objDataTable 実行時に False が返された際に表示したエラーメッセージを取得します。

cron の書式

分 時 日 月 曜 コマンド をそれぞれ半角スペースで区切って記述します。

この記述方法は比較的一般的な指定により本 dll 用に決定した仕様であり、何らかの UNIX もしくは Linux の cron との間で互換性を保証するものではありません

■ 分・時・日・月 は次のように指定します。

代表して分で例示)

* すべて

1 1分のみ実行

1,5 1分と5分に実行

1-5 1分～5分の各分に実行

1/5 1分から5分おきに実行

2-11/3 2分～11分の3分おきに実行

また、各指定はカンマ区切りで複数記述できる

1,3-5,10/10 1分と3・4・5分と10・20・30・40・50分に実行

存在しない日時を指定するとその分のデータは無視します。

■ 曜 は次のように指定します。

* 日付部分の指定に従う
 0 日曜日～ 6 土曜日
 1, 3, 5 月・水・金曜日
 2-4 火・水・木曜日
 0/2 日・火・木・土曜日

日付部分と曜日の両方に指定がある場合はそれぞれのいずれかでも指定がある日付全てを対象とします。

* * 1 1 1 来年の1月1日と、当日以降のすべての月曜日

■ コマンドラインは間にいくつスペースを挿入しても可能です。

※ ただし、二つ以上のスペースが連続したものは単一のスペースに短縮します。

フォルダー名やファイル名に連続した半角スペースが2つ以上含まれている場合は正しく動作できません

複雑な指定の例)

0/15 8-18 1-5 4, 10 * 決算データ取得.exe

4月と10月の1日～5日、8:00～18:45 まで15分刻みで決算データ取得.exe を実行する

strScheduleData() に複数のスケジュールデータを格納して gfnc_objDataTable に与えてください

すべてのデータを格納した DataTable を返します。

※ 現在時刻より過去のデータは無視します。

スケジュール生成日程の最終日はデフォルトで1年後の昨日です。

(今日一回だけ実行したいスケジュールを登録したことにより翌年同日に意図せずプログラムを実行させないため)

利用例

サンプルプログラムをご確認ください

Public Class Form1

```
Private Sub Button1_Click(ByVal sender As System.Object, _
    ByVal e As System.EventArgs) Handles Button1.Click
    Dim objCronReader As New TechBee.clsCronReader
    Dim strCronData As String() = Nothing
    Dim strDate As String = Format(DateAdd(DateInterval.Day, -1, _
        DateAdd(DateInterval.Year, 1, Now()))), "yyyy/MM/dd")
    If CctTextBox1.Text.Trim.Length > 0 Then
        ReDim strCronData(0)
        strCronData(0) = CctTextBox1.Text
    End If
    If CctTextBox2.Text.Trim.Length > 0 Then
        If strCronData Is Nothing Then
            ReDim strCronData(0)
        Else
            ReDim Preserve strCronData(strCronData.Length)
        End If
        strCronData(strCronData.Length - 1) = CctTextBox2.Text
    End If
    If CctTextBox3.Text.Trim.Length > 0 Then
        If strCronData Is Nothing Then
            ReDim strCronData(0)
        Else
            ReDim Preserve strCronData(strCronData.Length)
        End If
        strCronData(strCronData.Length - 1) = CctTextBox3.Text
    End If
    If Not strCronData Is Nothing Then
        If txtDate.Text.Length > 0 Then
            strDate = txtDate.Text
        End If
    End If
```

```
        Dim objDataTable As DataTable = _
            objCronReader.gfnc_objDataTable(strCronData, strDate)
        DataGridView1.DataSource = objDataTable
    End If
End Sub

Private Sub Button2_Click(ByVal sender As System.Object, _
    ByVal e As System.EventArgs) Handles Button2.Click
    Dim objCronReader As New TechBee.clsCronReader
    Dim strDate As String = Format(DateAdd(DateInterval.Day, -1, _
        DateAdd(DateInterval.Year, 1, Now()))), "yyyy/MM/dd")
    If txtDate.Text.Length > 0 Then
        strDate = txtDate.Text
    End If
    Dim objDataTable As DataTable = _
        objCronReader.gfnc_objDataTable(System.Environment.CurrentDirectory & _
            "¥CronData.txt", strDate)
    DataGridView1.DataSource = objDataTable
End Sub

Private Sub Form1_Load(ByVal sender As System.Object, _
    ByVal e As System.EventArgs) Handles MyBase.Load
    txtDate.Value = Format(DateAdd(DateInterval.Day, -1, _
        DateAdd(DateInterval.Year, 1, Now()))), "yyyy/MM/dd")
    CctTextBox3.Text = "*" & Format(Now(), "H d M") & _
        * 直近のスケジュール.exe
End Sub
End Class
```

概要

指定した文字列が任意のポリシーに則ったものかどうかを判定します。
最大桁数・最小桁数の文字数範囲、禁止文字使用の有無、大文字・小文字・数字・記号の利用可否および最小要求桁数などを判定します。
ポリシーに則ったランダムな文字列を生成することが出来ます。

分類

dll

ファイル名

chkPassword.dll

準備

dll の準備方法を参照してください

利用方法

次のようにしてオブジェクトを生成してください
Dim objPassword As New TechBee.clsPassword

ファンクション

名称	引数	型	摘要
gfnc_strRandomString	なし	String()	ポリシーに則ったランダムな文字列を返します。

プロパティ

名称	型	摘要
MaxLength	Integer	判定対象文字列の最大桁数を指定します。 デフォルト：8
MinLength	Integer	判定対象文字列の最小桁数を指定します。 デフォルト：6
NeedUpperCount	Integer	判定対象文字列のうち最低限必要な大文字の文字数を指定します。 デフォルト：0
NeedLowerCount	Integer	判定対象文字列のうち最低限必要な小文字の文字数を指定します。 デフォルト：0
NeedNumericCount	Integer	判定対象文字列のうち最低限必要な数字の文字数を指定します。 デフォルト：0
NeedSignCount	Integer	判定対象文字列のうち最低限必要な記号の文字数を指定します。 デフォルト：0
IsUpperUse	Boolean	判定対象文字列中の大文字の使用可否を指定します。 デフォルト：True
IsLowerUse	Boolean	判定対象文字列中の小文字の使用可否を指定します。 デフォルト：True
IsNumericUse	Boolean	判定対象文字列中の数字の使用可否を指定します。 デフォルト：True
IsSignUse	Boolean	判定対象文字列中の記号の使用可否を指定します。 デフォルト：True
SignList	String	記号として使用可能な文字列を指定します。 デフォルト：“-+/_”
BlackList	String	使用を禁止する文字列を指定します。 デフォルト：“アイウエオィウエカキクケコサシスセソタチツテッナニヌネノ ハヒフヘホマミムメモヤユヨラリルロワヅン”

利用例

サンプルプログラムをご確認ください

Public Class Form1

Private m_objPassword As New TechBee.clsPassword

```
Private Sub Form1_Load(ByVal sender As System.Object, _  
    ByVal e As System.EventArgs) Handles MyBase.Load  
    txtMaxLength.Value = m_objPassword.MaxLength  
    txtMinLength.Value = m_objPassword.MinLength  
    txtUpperCount.Value = m_objPassword.NeedUpperCount
```



```
txtLowerCount.Value = m_objPassword.NeedLowerCount
txtNumericCount.Value = m_objPassword.NeedNumericCount
txtSignCount.Value = m_objPassword.NeedSignCount
chkUpper.Checked = m_objPassword.IsUpperUse
chkLower.Checked = m_objPassword.IsLowerUse
chkNumeric.Checked = m_objPassword.IsNumericUse
chkSign.Checked = m_objPassword.IsSignUse
txtSignList.Text = m_objPassword.SignList
txtBlackList.Text = m_objPassword.BlackList
End Sub

Private Sub cmdCheck_Click(ByVal sender As System.Object, _
    ByVal e As System.EventArgs) Handles cmdCheck.Click
    msub_setProperty()
    m_objPassword.Password = txtCheckString.Text
    If m_objPassword.Password.Length > 0 Then
        MsgBox("指定したパスワードは有効です。", _
            MsgBoxStyle.Information + MsgBoxStyle.OkOnly, "パスワード判定")
    End If
End Sub

Private Sub msub_setProperty()
    m_objPassword.MaxLength = txtMaxLength.Value
    m_objPassword.MinLength = txtMinLength.Value
    m_objPassword.NeedUpperCount = txtUpperCount.Value
    m_objPassword.NeedLowerCount = txtLowerCount.Value
    m_objPassword.NeedNumericCount = txtNumericCount.Value
    m_objPassword.NeedSignCount = txtSignCount.Value
    m_objPassword.IsUpperUse = chkUpper.Checked
    m_objPassword.IsLowerUse = chkLower.Checked
    m_objPassword.IsNumericUse = chkNumeric.Checked
    m_objPassword.IsSignUse = chkSign.Checked
    m_objPassword.SignList = txtSignList.Text
    m_objPassword.BlackList = txtBlackList.Text
End Sub

Private Sub cmdCreate_Click(ByVal sender As System.Object, _
    ByVal e As System.EventArgs) Handles cmdCreate.Click
    msub_setProperty()
    MsgBox(m_objPassword.gfnc_strRandomString, _
        MsgBoxStyle.Information + MsgBoxStyle.OkOnly, "パスワード生成")
End Sub

Private Sub CheckBox_CheckedChanged(ByVal sender As System.Object,
    ByVal e As System.EventArgs) Handles chkUpper.CheckedChanged, _
    chkLower.CheckedChanged, _
    chkNumeric.CheckedChanged, _
    chkSign.CheckedChanged

    If sender.checked Then
        sender.text = "許可"
    Else
        sender.text = "禁止"
    End If
End Sub

End Class
```

概要

MySQL に接続し、データ参照・更新その他の操作を行います。
データベースへの接続文字列を指定することもログイン画面から指定してもらうことも出来ます。
他のデータベースへの接続用 dll も順次公開してゆきます。
データベース接続用の一連の dll のコンセプトはすべてのデータベースに対して同一の操作性を実現することにあります。
ただし、データベース接続時の項目の違いや、固有の SQL の記述方法はそれぞれのデータベースの仕様にならってください
MySQL のサイトから 別途 MySQL.Data.dll を入手してください

分類

dll

ファイル名

ConnectionMySQL.dll

準備

dll の準備方法を参照してください

利用方法

次のようにしてオブジェクトを生成してください

後から接続情報を指定する場合

```
Dim objConnection As New TechBee.DataBase.ConnectMySQL
```

オブジェクト生成時に接続情報を指定する場合

```
Dim objConnection As New TechBee.DataBase.ConnectMySQL ([ユーザーID], _  
[パスワード], [データベース名], [サーバー名], [ポート番号])
```

```
Dim objConnection As New TechBee.DataBase.ConnectMySQL _  
[ユーザID]/[パスワード]@[データベース名]:[サーバー名]([ポート番号])
```

※ オブジェクト生成時に接続文字列からポート番号を省略出来ます。

省略時は 3306 を使用します。

※ すべてについて、オプションで末尾に True を与えるとエラー発生時にシステムエラーを表示します。

デバッグ時にご利用ください

サブプロシージャ

名称	引数	摘要
gsub_Login	blnRegistry	ユーザーに接続情報を指定してもらうためにログイン画面を開きます。 オプションの引数で True を与えると、前回ログイン画面でログイン時に指定した内容を初期値としてセットします。 無指定時もしくは False を与えた場合は、事前に接続情報を指定があればその内容を、なければ空白文字列を初期値としてセットします。 いずれの場合もパスワードはブランクです。

ファンクション

名称	引数	型	摘要
gfnc_getDataTable	strSQL	DataTable	データを取得するための Select 文を与え、それによって求めたデータを DataTable に格納して返します。
gfnc_blnBeginTransaction		Boolean	トランザクションを開始します。 事前に指定した接続情報を元に接続します。 True : 接続成功 False: 接続失敗
gfnc_blnExecute	strSQL	Boolean	データ更新その他のデータベース操作を行う SQL を与え、実行します。 権限さえあれば、Create Table など実行できます。 True : 処理成功 False: 処理失敗

名称	引数	型	摘要
gfnc_blnEndTransaction	blnSuccess	Boolean	トランザクションを終了します。 引数の値により、Commit もしくは RollBack を行います。 True : 処理成功 False: 処理失敗 (引数の値が False だった場合は無条件で False になります)
gfnc_strTableNames		String()	データベースに接続したユーザーが利用出来るテーブルの一覧を返します。 データなしもしくは失敗時は Nothing を返します。
gfnc_strFieldNames	strTableName	String()	指定したテーブルのフィールド一覧を返します。 データなしもしくは失敗時は Nothing を返します。

プロパティ

名称	型	摘要
UID	String	データベースに接続するためのユーザー ID を指定します。
PWD	String	データベースに接続するためのパスワードを指定します。
DBN	String	データベースに接続するためのデータベース名を指定します。
SRV	String	データベースに接続するためのサーバー名を指定します。
PRT	String	データベースに接続するためのポート番号を指定します。 デフォルト値は 3306 です。
ShowError	Boolean	True を与えるとエラー発生時にシステムエラーをそのまま表示します。 デバッグ時にご利用ください
MessageBoxTitle	String	システムエラー表示時のメッセージボックスのタイトルを指定します。 デフォルト値は MySQL System Error Message です。

利用例

■ オブジェクト生成時にすべてを指定する場合

```
Private Sub Button1_Click(ByVal sender As System.Object, _
                        ByVal e As System.EventArgs) Handles Button1.Click
    Dim objConnection As New TechBee.DataBase.ConnectMySQL([ユーザーID], _
        [パスワード], [データベース名], [サーバー名], [ポート番号] _
        [, [システムエラー表示]])
    Dim objDataTable As DataTable = objConnection.gfnc_getDataTable _
        ("SELECT * from M_ZIP")
    MsgBox(objDataTable.Rows(0).Item(0).ToString)
End Sub
```

■ データベースへの接続情報をログイン画面から入力を求め、初期値として直前回ログイン時の情報をセットする場合

```
Private Sub Button1_Click(ByVal sender As System.Object, _
                        ByVal e As System.EventArgs) Handles Button1.Click
    Dim objConnection As New TechBee.DataBase.ConnectMySQL
    objConnection.gsub_Login(True)
    Dim objDataTable As DataTable = objConnection.gfnc_getDataTable _
        ("SELECT * from M_ZIP")
    MsgBox(objDataTable.Rows(0).Item(0).ToString)
End Sub
```

■ 任意のタイミングで接続情報を指定する場合

```
Private Sub Button1_Click(ByVal sender As System.Object, _
                          ByVal e As System.EventArgs) Handles Button1.Click
    Dim objConnection As New TechBee.DataBase.ConnectMySQL
    objConnection.UID = [ユーザーID]
    objConnection.PWD = [パスワード]
    objConnection.DBN = [データベース名]
    objConnection.SRV = [サーバー名]
    objConnection.PRT = [ポート番号]
    objConnection.ShowError = [システムエラー表示]
    objConnection.MessageBoxTitle = [システムエラータイトル文字列]
    Dim objDataTable As DataTable = objConnection.gfnc_getDataTable _
                                    ("SELECT * from M_ZIP")
    MsgBox(objDataTable.Rows(0).Item(0).ToString)
End Sub
```

概要

標準の機能を拡張した StatusStrip です。
 F T Pサーバーに接続してファイルのダウンロード・アップロードを行い、状態や結果を表示します。
 少数のファイルの転送を想定しており、1 ファイルの転送ごとにサーバーとの接続を閉じますので、大量ファイルを転送するには効率が悪い作りになっています。
 ご要望をいただきましたら機能拡張を検討しますのでお申し付けください

分類

カスタムコントロール

ファイル名

conFtp.dll

準備

カスタムコントロールの準備方法を参照してください

利用方法

フォーム上に貼り付けてください

ファンクション

gfnc_blnGetFile F T Pサーバーからファイルをダウンロードします。
 gfnc_blnPutFile F T Pサーバーにファイルをアップロードします。

名称	引数	型	摘要
gfnc_blnGetFile	strServer	String	F T Pサーバー名もしくはI Pアドレスを指定します。
	strUserName	String	F T Pサーバーに接続するためのユーザー名を指定します。
	strPassword	String	F T Pサーバーに接続するためのパスワードを指定します。
	strServerFileName	String	F T Pサーバー上のファイル名をフルパスで指定します。
	strLocalFileName	String	ローカルのファイル名をフルパスで指定します。
	strServerPath	String	F T Pサーバー上のディレクトリを指定します。
	strLocalPath	String	ローカルのフォルダー名を指定します。
	strFileName	String	ダウンロードファイル名を指定します。
	blnBinaryMode (Optional)	Boolean	転送モードを指定します。 True : バイナリーモード False : アスキーモード(デフォルト)
gfnc_blnPutFile	strServer	String	F T Pサーバー名もしくはI Pアドレスを指定します。
	strUserName	String	F T Pサーバーに接続するためのユーザー名を指定します。
	strPassword	String	F T Pサーバーに接続するためのパスワードを指定します。
	strServerFileName	String	F T Pサーバー上のファイル名をフルパスで指定します。
	strLocalFileName	String	ローカルのファイル名をフルパスで指定します。
	strServerPath	String	F T Pサーバー上のディレクトリを指定します。
	strLocalPath	String	ローカルのフォルダー名を指定します。
	strFileName	String	アップロードファイル名を指定します。
	blnBinaryMode (Optional)	Boolean	転送モードを指定します。 True : バイナリーモード False : アスキーモード(デフォルト)

両関数とも引数の形式は次の通りです。

※ 引数で指定しない項目は事前に他の方法で指定しておく必要があります。

■ 転送元ファイル名と転送先ファイル名が異なる場合

```
gfnc_blnGetFile(strServer, strUserName, strPassword, _
                strServerFileName, strLocalFileName[, blnBinalyMode])
gfnc_blnGetFile(strServerFileName, strLocalFileName[, blnBinalyMode])
gfnc_blnGetFile([blnBinalyMode])
```

■ 転送元ファイル名と転送先ファイル名が同一の場合

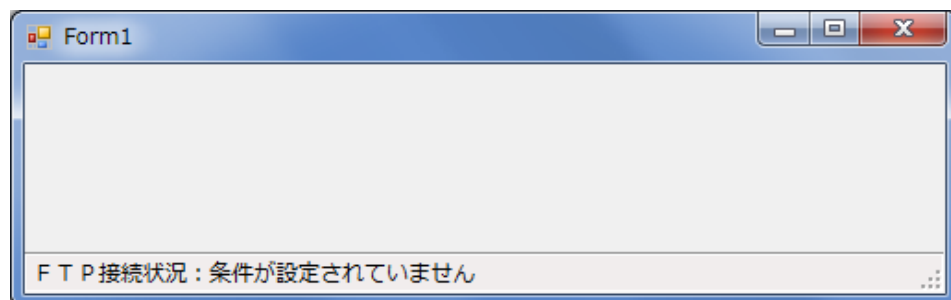
```
gfnc_blnGetFile(strServer, strUserName, strPassword, _
                strServerPath, strLocalPath, strFileName[, blnBinalyMode])
gfnc_blnGetFile(strServerPath, strLocalPath, strFileName[, blnBinalyMode])
gfnc_blnGetFile(strFileName[, blnBinalyMode])
```

プロパティ

名称	型	摘要
Server	String	F T Pサーバー名もしくはI Pアドレスを指定します。
UserName	String	F T Pサーバーに接続するためのユーザー名を指定します。
Password	String	F T Pサーバーに接続するためのパスワードを指定します。
ServerPath	String	F T Pサーバー上のフルパスのファイル名もしくはディレクトリ名を指定します。
LocalPath	String	ローカルのフルパスのファイル名もしくはディレクトリ名を指定します。
FileName	String	ダウンロードもしくはアップロードするファイル名を指定します。

利用例

■ カスタムコントロールとしてフォーム上に貼り付けて利用する場合



```
Private Sub Form1_Load(ByVal sender As System.Object, _
                      ByVal e As System.EventArgs) Handles MyBase.Load
    ConFtp1.Server = [サーバー名]
    ConFtp1.UserName = [ユーザー名]
    ConFtp1.Password = [パスワード]
    ConFtp1.ServerPath = "/"
    ConFtp1.LocalPath = "C:¥temp"
    ConFtp1.gfnc_blnGetFile("Upload.html", False)
End Sub
```

■ 単独の dll として利用する場合（処理結果は関数の戻り値で確認して下さい）

```
Private Sub msub_getFile()
    Dim objFtp As New TechBee.CustomControl.conFtp
    objFtp.Server = [サーバー名]
    objFtp.UserName = [ユーザー名]
    ConFtp1.Password = [パスワード]
    If Not objFtp.gfnc_blnGetFile("/Download.txt", _
                                "C:¥Temp¥Download.log", False) Then
        MsgBox("ファイルのダウンロードに失敗しました。", _
              MsgBoxStyle.Critical + MsgBoxStyle.OkOnly, "conFtp サンプル")
    End If
End Sub
```

概要

Windows Form 上で、任意のファイルをドラッグアンドドロップすると、コントロール中のリストボックスにファイル名をフルパスで追加します。プロパティやファンクションによりリスト中のファイル名を取得することが出来ます。右クリックメニューによりリスト中の任意のファイル名を除外することが出来ます。リスト内の全選択・全解除をすることが出来ます。

分類

ユーザーコントロール

ファイル名

DropFileList.dll

準備

カスタムコントロールの準備方法を参照してください

利用方法

フォーム上に貼り付けてください

サブプロシージャ

名称	引数	摘要
gsub_blnListClear	なし	リスト中の全ファイルを消去します。
gsub_setAllSelect	blnSelect	引数に True を指定するとリスト内の全ファイルを選択します。 False を指定すると全ファイルの選択を解除します。

ファンクション

名称	引数	型	摘要
gfnc_strFileList	なし	String()	リスト中の全ファイル名を取得します。
gfnc_strFileList	blnSelect	String()	リスト中の全ファイル名を取得します。 引数に True を与えると選択データのみを返します。

プロパティ

名称	Read	Write	型	摘要
FileName	<input type="radio"/>		String()	リスト中の全ファイル名を取得します。
FileName(blnSelect)	<input type="radio"/>		String()	リスト中の全ファイル名を取得します。 引数に True を与えると選択データのみを返します。

利用例

```
Public Class Form1
```

```
    Private Sub cmdAllSelect_Click(ByVal sender As System.Object, _  
                                   ByVal e As System.EventArgs) Handles cmdAllSelect.Click  
        DropFileList1.gsub_setAllSelect(True)  
    End Sub
```

```
    Private Sub cmdExclusion_Click(ByVal sender As System.Object, _  
                                   ByVal e As System.EventArgs) Handles cmdExclusion.Click  
        DropFileList1.gsub_setAllSelect(False)  
    End Sub
```

```
    Private Sub cmdAllFile_Click(ByVal sender As System.Object, _  
                                   ByVal e As System.EventArgs) Handles cmdAllFile.Click  
        Dim strFileNames() As String = DropFileList1.FileName  
        Dim intCNT As Integer  
        Dim strMSG As String = ""  
        strMSG += "リスト中のファイル名は" & vbCrLf  
        If Not strFileNames Is Nothing Then  
            For intCNT = 0 To strFileNames.Length - 1  
                strMSG += strFileNames(intCNT) & vbCrLf  
            Next  
            strMSG += "です。"  
        Else  
            strMSG += "ありません"  
        End If  
        MsgBox(strMSG)  
    End Sub
```

```
Private Sub cmdSelectedFile_Click(ByVal sender As System.Object, _
    ByVal e As System.EventArgs) Handles cmdSelectedFile.Click
    Dim strFileNames() As String = DropFileList1.FileName(True)
    Dim intCNT As Integer
    Dim strMSG As String = ""
    strMSG += "選択されたファイル名は" & vbCrLf
    If Not strFileNames Is Nothing Then
        For intCNT = 0 To strFileNames.Length - 1
            strMSG += strFileNames(intCNT) & vbCrLf
        Next
        strMSG += "です。"
    Else
        strMSG += "ありません"
    End If
    MsgBox(strMSG)
End Sub

Private Sub cmdQuit_Click(ByVal sender As System.Object, _
    ByVal e As System.EventArgs) Handles cmdQuit.Click
    Me.Close()
End Sub

End Class
```


概要

プログラムの進捗状況を表示します。
縦横 4 マス、計 16 マスのキューブを 2 進法で塗りつぶしてゆきます。
定周期で進めることも、任意のタイミングで進めることも出来ます。

分類

ユーザーコントロール

ファイル名

ColorfulCube.dll

準備

カスタムコントロールの準備方法を参照してください

利用方法

フォーム上に貼り付けてください

サブプロシージャ

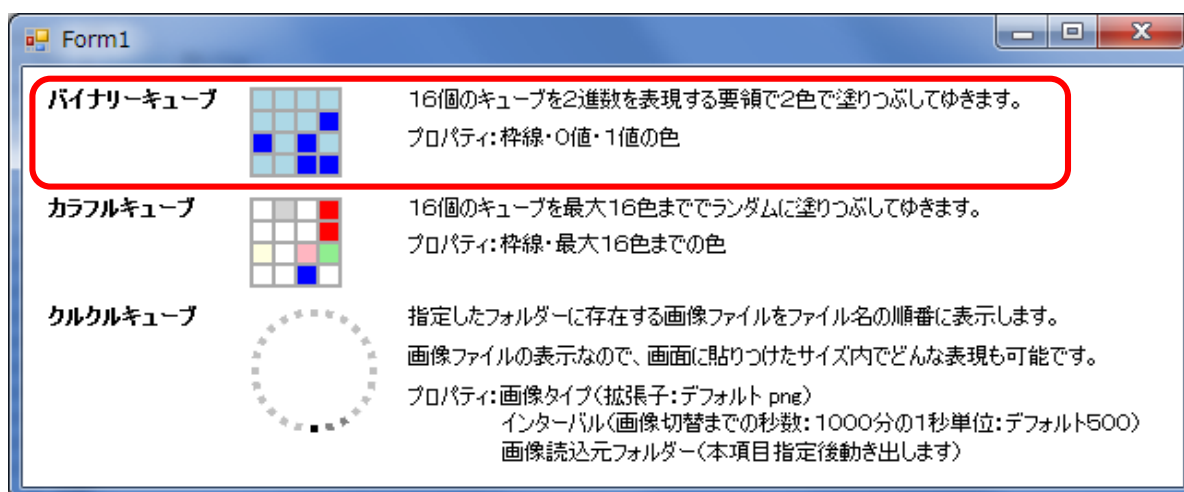
名称	引数	摘要
gsub_setCountUp	なし	任意のタイミングで手動でカウントアップします。

プロパティ

名称	Read	Write	型	摘要
Activate		<input type="radio"/>	Boolean	True : 自動実行、False : 手動実行
CubeColor		<input type="radio"/>	Color	引数 0 : OFFの色、1 : ONの色
SquareColor		<input type="radio"/>	Color	枠の色
Interval		<input type="radio"/>	Integer	タイマーのインターバル

利用例

```
BinaryCube1.CubeColor(0) = Color.LightBlue
BinaryCube1.CubeColor(1) = Color.Blue
BinaryCube1.SquareColor = Color.DarkGray
BinaryCube1.Interval = 100
BinaryCube1.Activate = True
```



概要

プログラムの進捗状況を表示します。
縦横 4 マス、計 16 マスのキューブを最大 16 色で塗りつぶしてゆきます。
定周期で塗り替えることも、任意のタイミングで塗り替えることも出来ます。

分類

ユーザーコントロール

ファイル名

ColorfulCube.dll

準備

カスタムコントロールの準備方法を参照してください

利用方法

フォーム上に貼り付けてください

サブプロシージャ

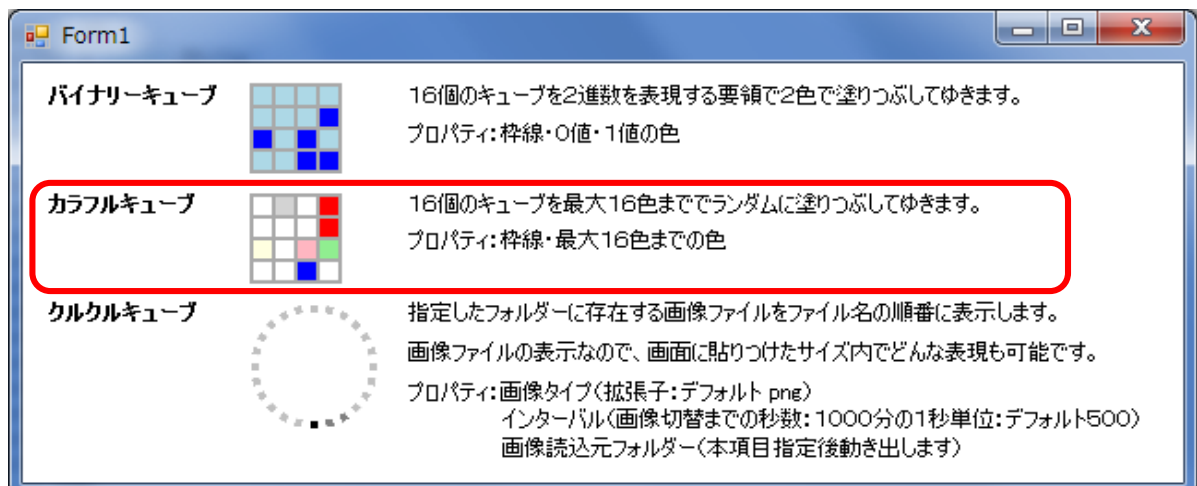
名称	引数	摘要
gsub_setCountUp	なし	任意のタイミングで手動でカウントアップします。

プロパティ

名称	Read	Write	型	摘要
Activate		<input type="radio"/>	Boolean	Teru : 自動実行、False : 手動実行
ColorCount		<input type="radio"/>	Integer	コントロール中で使用する色数
CubeColor		<input type="radio"/>	Color	0~15 のインデックスに割り当てたキューブの色 (ColorCountで指定した数までを使用します)
SquareColor		<input type="radio"/>	Color	枠の色
Interval		<input type="radio"/>	Integer	タイマーのインターバル

利用例

```
ColorfulCube1.ColorCount = 15
ColorfulCube1.CubeColor(0) = Color.White
ColorfulCube1.CubeColor(1) = Color.White
ColorfulCube1.CubeColor(2) = Color.White
ColorfulCube1.CubeColor(3) = Color.White
ColorfulCube1.CubeColor(4) = Color.White
ColorfulCube1.CubeColor(5) = Color.White
ColorfulCube1.CubeColor(6) = Color.White
ColorfulCube1.CubeColor(7) = Color.Blue
ColorfulCube1.CubeColor(8) = Color.Red
ColorfulCube1.CubeColor(9) = Color.Yellow
ColorfulCube1.CubeColor(10) = Color.LightBlue
ColorfulCube1.CubeColor(11) = Color.LightPink
ColorfulCube1.CubeColor(12) = Color.LightYellow
ColorfulCube1.CubeColor(13) = Color.LightGreen
ColorfulCube1.CubeColor(14) = Color.LightGray
ColorfulCube1.CubeColor(15) = Color.Red
ColorfulCube1.SquareColor = Color.DarkGray
ColorfulCube1.Interval = 100
ColorfulCube1.Activate = True
```



概要

プログラムの進捗状況を表示します。
指定したフォルダーに置かれた画像ファイルを定周期で切り替えて表示します。
存在するファイルすべてを表示後先頭ファイルに戻りますから無限ループで画像が切り替わります。
画像ファイルさえ用意していただければ事実上どんな表現も可能です。

分類

ユーザーコントロール

ファイル名

ColorfulCube.dll

準備

カスタムコントロールの準備方法を参照してください

利用方法

フォーム上に貼り付けてください

サブプロシージャ

名称	引数	摘要
gsub_setCountUp	なし	任意のタイミングで手動でカウントアップします。

プロパティ

名称	Read	Write	型	摘要
DataPath		<input type="radio"/>	String	画像を保存したフォルダーを指定します。
FileType		<input type="radio"/>	String	画像ファイルの拡張子を指定します。 デフォルト: png
Interval		<input type="radio"/>	Integer	タイマーのインターバル

利用例

```
CurucuruCube1.BackColor = Color.White  
CurucuruCube1.Interval = 100  
CurucuruCube1.FileType = "bmp"  
CurucuruCube1.DataPath = ".\curucuru"
```

